

1.1月の全豪オープン(メルボルン)ではグランド
スラム初のベスト8進出を果たした 2.ジュニア
グランドスラムでの優勝が次の目標だ 3.普段
は甘いものを食べ歩くなど、スイーツ好きな17
歳 4.復帰後の全仏オープン(パリ)では2回戦
で惜しくも敗れた 5.数々の大会で勝利を取
り続けてきた 6.所属クラブのフロントに置かれた
遠征費の募金箱



特集 3 テニスプレイヤー 本玉 真唯



17歳が目指す世界、 そしてグランドスラムのセンターコート

シニアのプロツアーと同様に
ジュニア世代も熾烈な戦いが繰り広げられているテニス界。
その最高峰はジュニアグランドスラムで
あの錦織圭もプロ転向の前年まで同カテゴリーで戦っていた。
今年の全豪ジュニアでベスト8入りを果たした本玉真唯は
名実共に世界のトップジュニアの一人。
そして18歳からは、新たなステージが彼女を待っている。

本玉 真唯 1999年8月30日 町田市生まれ 南大谷小学校・南大谷中学校出身 S.ONEグリーンテニスクラブ(川崎市麻生区)所属 2015世界スーパー

ジュニア優勝 2017全豪オープンジュニアシングルスベスト8

本玉真唯さんがラケットを初めて握ったのは4歳の時だった。父や兄の影響で始めたテニス。そのボールを打つ感覚が楽しくて、夢中になっていった。6歳で町田ローンテニスクラブの選手養成コースに入り、初勝利は小学校3年生。その後関東大会、全国大会と着実に目標を達成し、2011年に全国小学生大会で優勝、2015年には世界スーパージュニアで日本人として8年振りの優勝を飾った。今年1月、目標だったグランドスラムで初のベスト8に入り、世界ランキングは最高15位(2016年1月)。高校は通信制に進み、1年の3分の1を海外で過ごす。

164cmの身長は世界のテニス界では小柄な方で、その体格差をカバーする為、ライジング気味のボールを叩く、攻めのテニスが彼女のスタイルだった。しかし、全豪で腰に異常を感じ、偶発的な怪我也も重なり、ついに身体が悲鳴を上げた。それから約1か月、コートに立てなくなるほど状態は深刻だった。

コーチやリハビリのトレーナー、ドクターたちとフォームを改造することを決め、春から懸命に取り組んだ。「想像以上に大変だったけど、このままでは身体が壊れてテニスが続けられなくなると知って必死でした。テニスをとったら私、何も残らないから。」

それから3か月が経った5月。岐阜で行われた復帰初戦は1回戦で敗退したが、続くイタリアとベルギーの大会では徐々に調子をとり戻し、6月の全仏オープンでは身体も自信も回復していた。それまでのテニスに加え、ディフェンスや球種の使い分けもできるようになり、プレーの幅も広がった。精神的にも技術的にも、二回り成長した本玉真唯がそこにいた。

「あんなに長くテニスから離れたこと、なかったんです。リハビリ中も、自分より大変な怪我をした選手が周りに大勢いて、色々な人に支えられているんだっていうことに気がきました。だから、テニスが出ることに感謝して、何があっても絶対諦めずに頑張ろうって思ったんです。」

試練は自信となつて、きつと彼女を支える武器になる。グランドスラムのセンターコートを目指し、彼女はこれからも逞しく挑み続ける。